

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼高等学校  
種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 988 - 0051  
宮城県気仙沼市常楽 130

E-mail : info@kesenuma-h.myswan.ne.jp

Website : http://kesenuma-h.myswan.ne.jp

児童生徒数：男子 414 名 女子 404 名 合計 818 名

児童・生徒の年齢 15歳～18歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解  
 持続発展教育 (ESD) (国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動  
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 その他 ( ) )  
 そのほか ( )

#### 4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

①ケナフを使い 大津波で冠水した田んぼの回復を試みる実験

②気仙沼高校敷地内の放射線量の測定

①について

まず、放課後に海水に浸かった田んぼの様子を生徒たちと見に行った。田んぼのごみを片づけながら、今後この海水に浸かった田んぼを何とか使えるようになるためにはどうすればよいか考えた。海水に浸かると塩害が心配で今年の作付は行われなかった。一日でも早く復興する手助けとなるため、田んぼの塩分を植物に吸収させてみてはどうかと考えた。

そこで、ケナフという植物を使い、どの程度除塩できるか調べた。5月はケナフを植えるために、生徒たちとがれきを撤去し、田んぼを耕し、畑を作った。それと同時に学校でケナフの苗作りを行った。6月にケナフを移植し、宮城教育大学環境教育実践センターの協力をいただきながら月ごとに土壌の塩分濃度を調査した。夏休みには除草作業も行い、3か月間実験を行った。その結果、ケナフの除塩効果よりも降雨の効果の方が大きかったが、田んぼの土壌環境は安定した状態に回復したことをケナフの生長から知ることが出来た。この学習を通して、生徒たちは植物や大地といった自然の力を再確認することができた。

②について

福島第一原子力発電所での事故は、気仙沼市から離れているとはいえ、よくわからない放射性物質に対し底知れぬ恐怖を感じた。震災時には放射能に関する様々な噂が飛び交い、不安をあおった。不安の要因として、放射能に対する知識がほとんどないため、情報の真偽が分からないことも一つにあった。その不安を取り除くためにはみんなが放射線について学ばねばならないと思った。そこで、5月中旬から学校内の空気中の放射線量率を調べた。その調査結果を生徒昇降口に毎日記入し、全校生徒にその情報を知らせた。その結果、本校正門前で約 0.3mSv/年と基準値（文科省の年間積算放射線量 20 mSv/年）より低い値となった。自分たちで調査し、正しい情報を得ることで生徒たちも安心したようだった。しかし、今後海洋汚染や土壌汚染から食べ物を通して体内被曝などが心配される。生徒たちは、これまで体験したことのない放射線の汚染と向き合うことになるが、情報に振り回されることなく、正しい知識で判断し行動することが大事だということが理解できた。



